

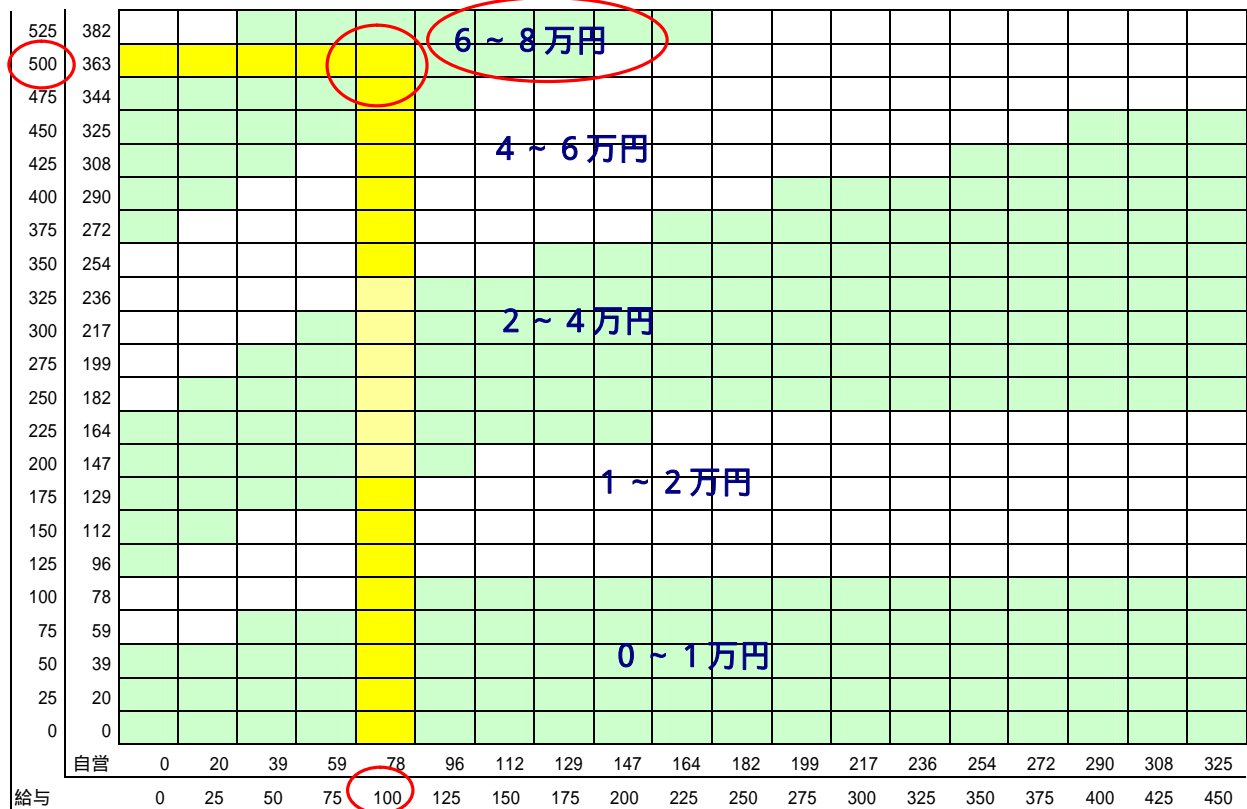
【養育費算定表の見方】

母親が子2人（7歳と5歳）を引き取る場合  
 父親（義務者）会社員 年収500万円  
 母親（権利者）会社員 年収100万円

「表3 養育費・子2人表（第1子及び第2子0～14歳）」を使います。  
 父母とも給与所得者ですので、給与欄の数字を使います。  
 タテ軸の「500」とヨコ軸の「100」が交わる点から、月額「6～8万円」となります。

表3 養育費・子2人表（第1子及び第2子0～14歳）

（義務者の年収 / 万円）



（権利者の年収 / 万円）

【ケース2】

母親が子1人(0歳)を引き取る場合

父親(義務者) 会社員 年収500万円

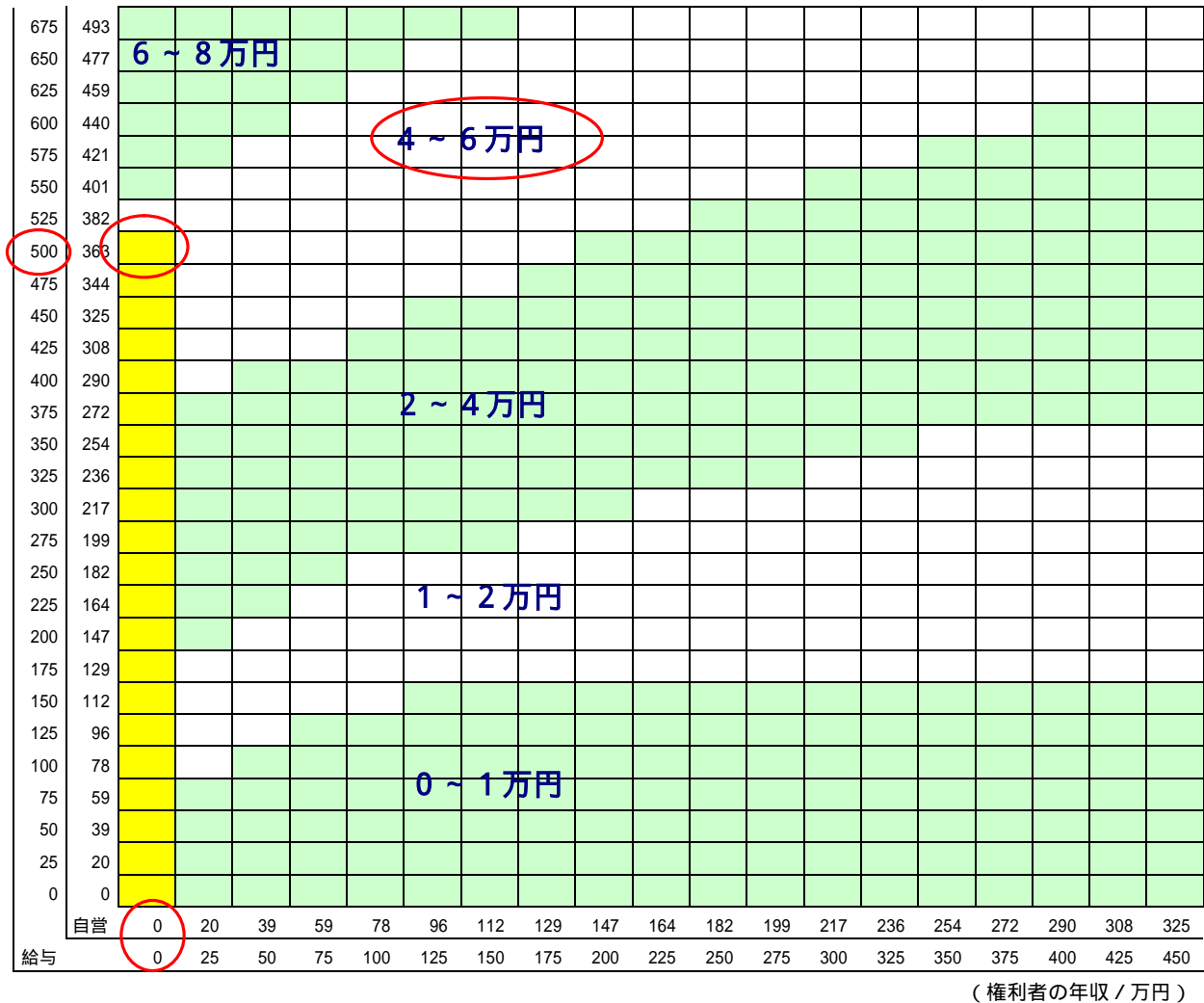
母親(権利者) 無職(専業主婦) 年収なし

「表1 養育費・子1人表(子0~14歳)」を使います。

タテ軸の「500」とヨコ軸の「0」が交わる点から、月額「4~6万円」となります。

表1 養育費・子1人表(子0~14歳)

(義務者の年収/万円)



【ケース3】

母親が子3人（17歳・15歳・8歳）を引き取る場合

父親（義務者） 自営業 年収460万円

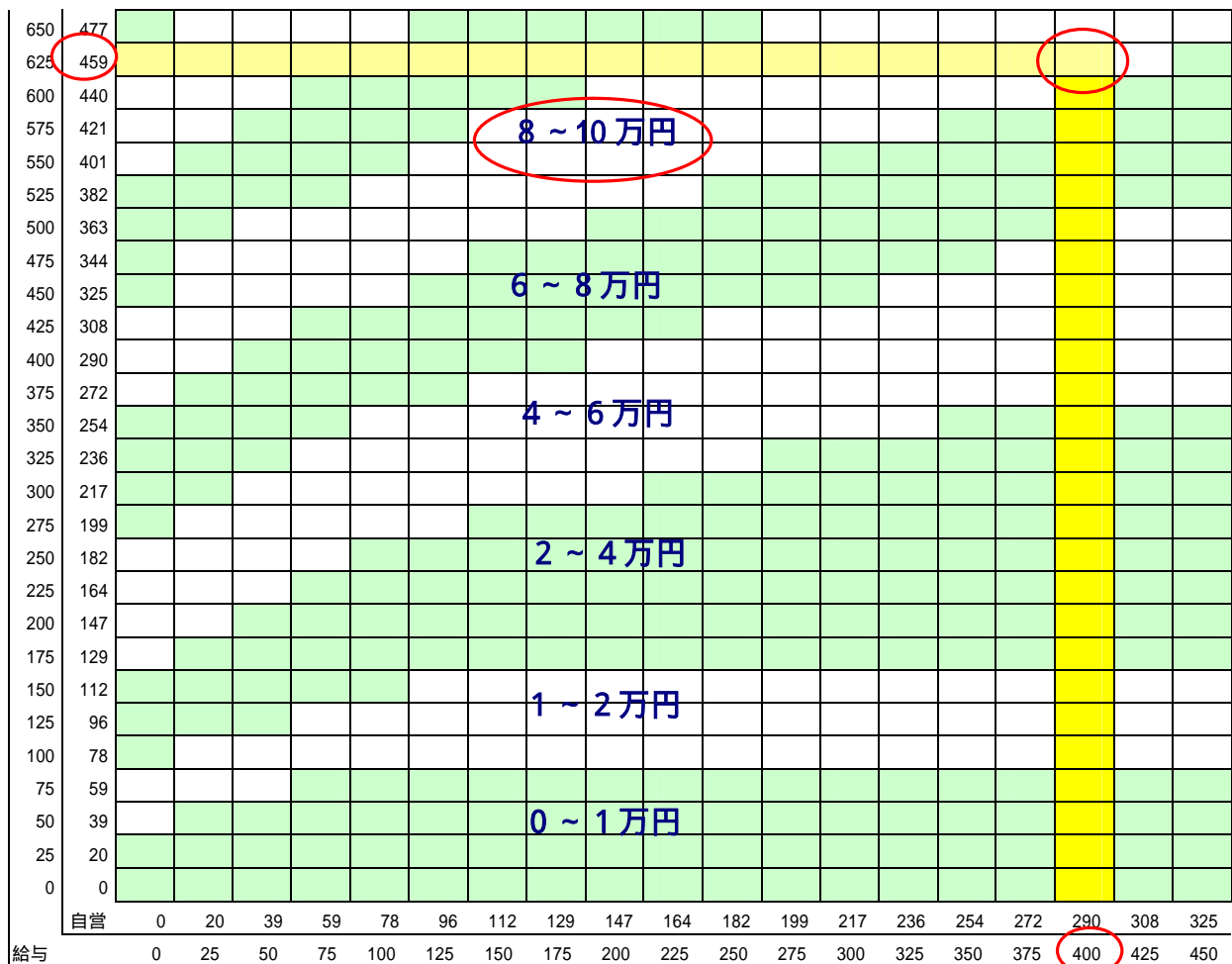
母親（権利者） 会社員 年収410万円

「表8 養育費・子3人表（第1子及び第2子15～19歳、第3子0～14歳）」を使います。

タテ軸ですが、年収に近い「459」と、ヨコ軸もやはり年収に近いの「400」が交わる点から、月額「8～10万円」となります。

表8 養育費・子3人表（第1子及び第2子15～19歳、第3子0～14歳）

（義務者の年収 / 万円）



（権利者の年収 / 万円）